

宗岡第二小学校だより

令和7年 6月号
No. 3



学校教育目標

よく考える子 やさしい子 たくましい子



かけがえのない時間のつかいかた

校長 赤沢 直幸

梅雨の足音が聞こえてくる季節となり、紫陽花が少しずつ咲き始めました。子どもたちは天候に左右されることなく、日々の学びや活動に元気いっぱい取り組んでおります。



また、保護者の皆様には過日行われた個人面談にご来校いただきありがとうございました。共有させていただいたお話は、日々の子育ての一助にさせていただくとともに学校の教育活動に役立てていきたいと考えております。



日本には、およそ3000の記念日があるそうです。毎日10個近くの「〇〇の日」「〇〇記念日」があるということになるのでしょうか。そのひとつに6月10日「時の記念日」があります。この日に天智天皇が漏刻（ろうこく）という水時計を設置し、鐘や太鼓で人々に時刻を知らせたと『日本書紀』に記されていることに由来し、1920年（大正9年）に国などが「時間を正確に守ることで生活を改善し、効率化を図ること」を提唱し、制定したそうです。（出典：日本記念日協会 HP）

ここで気になるのが、国をあげて「時間を正確に守り生活を改善」することを進めていたことです。多くの方がイメージしている「時間に正確」な日本人像とは、少し合わない気がします。現代の日本では、電車や新幹線が分刻み（今では秒刻み）で運行されるなど、時間に対する正確さが世界的に評価されていることもその一例です。

しかし、かつての日本人は時間に対しておおらかであったといわれています。幕末から明治初期に来日した外国人たちは、日本人の時間に対する感覚の違いに戸惑ったと記録を残しています（時の記念日が制定された大正時代もその傾向が続いていたようです）。

そんな日本人が時間を意識するようになったのは、①鉄道や郵便事業の普及などの近代化と②決められたスケジュールで学習や給食の時間を過ごす学校教育によるものだといわれています。こうした社会や生活の変化によって、日本人の時間に対する意識が少しずつ変化してきました。

学校でも、チャイムに合わせて行動したり、授業の合間の休み時間でオンオフの切り替えを身につけたりして、日々の生活の中で時間感覚を育てています。

ご家庭でも「時の記念日」を機に、親子で時間の大切さについて改めて考えてみてはいかがでしょうか。そして、お子さんとのかけがえのない時間を過ごしていきましょう。

